「新・平家物語」クライマックス

← 藤原時信（石黒達也）

↑「なんの、智恵どころに心配はないぞ！」

清盛（市川雷蔵）は、やさしく妻の時子（久我美子）の手をたいて公うのだが、時子の心は、おだやかでは閉られなかった。相手は名に負う荒法師たち、清盛の身は若しものことがあったら、何としよう……。

→ 若い時子（久我美子）や、その弟の時忠（林成年）と語り合っている姉が、有年（石黒達也）に、身を任せ、[illegible]

それは家庭にあっては、味わうことの出来ない、何か非常にくつろいだ気分を味わ[illegible]

＊ 藤原時信（若原雅也）の部は、清盛（市川雷蔵）の客あり、はるかに広い。若に果でているとは云っても、矢張り藤原一門の家には違いな

＊ 「後がこそ、いかほど大きな家を拵えて見せるぞ」清盛は心の中でそう思う。陸子（久我美子）が、側からそっと酒を注めてくれる。

＊ つねに家柄のよいことや、白河法皇の寵をうけたことを鼻にかける妻子（木暮実千代）に、如何に母とは云えおい清盛（市川雷蔵）は我慢がならなかった。「この母を打つとぬかや、打てるものなら打ってごらん」憤りに満ちた妻子の言葉に、我を忘れて清盛の鉄拳が飛んだ。

くわしいセット拝見記は 110 頁に